

水害からの生活再建支援と地域再生の実践



たすけあいセンター「JUNTOS」

www.juntos-joso.org

地域復興のための課題

空き家、人口流出、孤立と分断

- 壊れた家や災害ゴミ、浸水の跡が見えなくなり表面的には以前の街並みに戻った。3日間泥水に浸かった家のダメージ（床上数10cmでも500万円以上）は想像以上。
- 「被災生活」が続いていることや、「支援金不足による経済的問題が大きいことが見えにくい
- 元の生活に戻れた人と、戻れない人、帰る家がまだない人の格差、気持ちの温度差が拡大している
- 災害に備える動きが鈍く、被災経験が風化しつつある
- 転出者や空き地が増え地域が暗く、ひっそりしている
- 店や集会施設が減り、人の交わりが減っている
- 高齢者の引きこもり傾向、認知症リスクが高まっている
- オーナーが改修も解体も出来ない家、アパートがそのままになっている。

復興期の課題

個々の生活再建と住宅と地域の再生

- 住む場所の確保

アパートが治っていない、又は自宅を再建できない人の住宅確保（市営住宅不足分は民賃の家賃補助を）

- 高齢世帯などの生活支援

（送迎、庭掃除や片付けの支援、余暇、見守り）

- 空き家を修復・活用し住民が集える拠点づくり

（引きこもり防止、介護予防、まちの保健室、子ども食堂、認知症カフェ、多世代・多文化交流拠点に）

- 災害に備えた地域づくり

（一時退避施設を設定した避難マップ作成と避難訓練、地区単位での多言語メール配信で情報共有）

- 被災経験の発信と防災の事業化

（視察受入れ、記録出版、オリジナル防災グッズ作成）

市外避難者の孤立防止と帰還支援

市・市社協・コモンズで見守りの3者協定
それぞれが持つ被災者の情報を毎月、共有
(市が生活再建総合窓口を作る必要性！)

12月から1、2ヶ月毎につくばで茶話会
送迎支援と個別相談(住宅、税金、家族)
戻らないを選択した人も時々戻れる場創り

つくばの無料住宅の期限は今年9月末

つくばに避難している方とともに



茶話会に市長も出席



紅葉狩り



空き家を改修

空き家リノベーションと 新たな長屋作り

- 改修費支援と入居者が見込めれば、改修できるアパートや一軒家は街中に多数存在し、直したいオーナーもいる。
- 改修費を「家守会社」が負担し家賃で返済するモデルを作ればオーナーが直せないでいる不動産を再生できる。
- 課題は改修費を抑え、入居者をどう確保するか
- リノベーションスクールを行うことで、家づくりを手伝うボランティア、自ら直して移住する人を呼び込める。
- 空き家再生で新しいアパートにはないものを付加する。
(シェアハウス、飲食、交流スペース、福祉長屋のような共同生活ができる空間、見守り・仕事がある、等)

橋本町の診療所と母屋の改修



活躍する学生ボランティア



ランチは特製スリランカカレー

最後まで地域で暮らせる生活支援

- ボランティア送迎はオンデマンド交通を利用出来ない人の移動保障。住民参加で継続させる。
- 庭の清掃や片付け、家の改修などは就労訓練を受けている若者や障害がある人も活躍できる
- 地域とNPO、社協などが協力して誰でもこられる「サロンや食事会」を開けば、外出しにくい人も来られ、顔が見える関係性が作れる。
- 外国籍住民の中からサポーターを養成し、たり地域で小規模保育をして助け合いの輪に入れる。

空き家を再生した交流拠点



再生からもうすぐ1年



レストラン跡地は空き地のまま



自家製干しいものは大好評



人をつなぐ農園・食事・ヤギ



地区防災のモデル地域に

自治会と連携し避難に関する全世帯調査

水害時の一時退避施設の設定

避難経路を考える街歩きと避難マップ作成

(タイムライン+自分が逃げる先を決める

学校での避難所開設ゲーム (HUG)訓練

避難所にあるべき資機材の設置と開設訓練

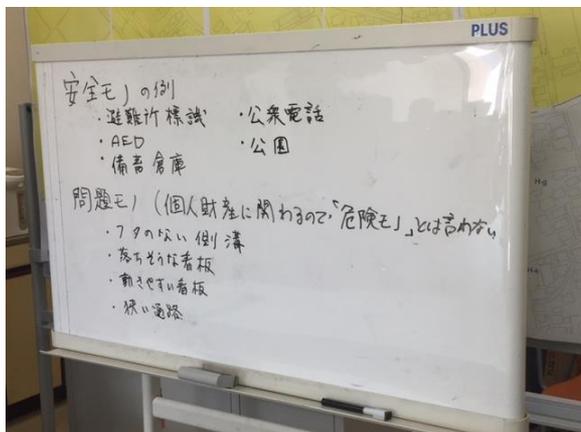
地区SMS配信の体制作り(多言語で)

外国籍住民も含めた避難訓練の実施

学校・地域で避難所運営マニュアルづくり

オリジナル災害用キットの商品化

安心を取り戻すための避難地図作り



何を調べるか説明



グループで危険箇所を確認



市長「自主防災のモデルに！」



気づいたことを地図に

避難マップ（作成途中）

